

44 フラワーアーティスト・窪田龍策（2021年4月1日）

パリでフラワーアーティストとして活躍される窪田龍策さんは、高校生のときに華道の草月流を習い、卒業後に東京の花屋で働きながらヨーロッパスタイルのフラワーアレンジメントを学ばれました。ドイツやパリの花屋でも経験を積み、1994年にパリにご自分のお店を開業されました。現在は、契約する会社やレストランなどで定期的に活け込みをされています。

窪田さんの作品を拝見して、窪田さんの作品は活け花なのか、それともフラワーアレンジメントなのかと迷いました。なぜなら、とても華やかな作品でありな



がら、古典的な和風の要素も感じられるように見えたからです。現代の活け花は自由なデザインが取り入れられていますが、古典的な活け花というと、野原に咲く小ぶりの花や茶色い枝を使い、空間を大切にするのであまり多くの花材を使



わない傾向があるため、華やかさは感じられません。窪田さんの作品は造形的で華やかさがありながらも、自然の中に生える植物を見ているような安心感も覚えます。

窪田さんがアレンジメントを制作される際に一番大切にされていることは、植物の表情を活かすことだそうです。花には必ず表と裏があり、その花が一番美しく見える向きがあります。その方向を見極めると、あとは自然にデザインが出来上がると窪田さんはおっしゃいます。植物学の知識も身につけられ、新しい花に出会うと、茎や花びらの特徴からどのような花であるかを理解して花を扱われています。長年の経験によって、それぞれのお花を最も美しく活かすデザインを生み出されています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

お花は、切り花になった時点で命の終わりに向かい始めます。しかし、窪田さんの手にかかると、お花に新たな命が吹き込まれます。窪田さんの手によって美しい姿で人目に触れることになるお花たちは、幸せなのではないかと思います。これからも窪田さんは、窪田さんにしか表現することができない世界を私たちにを見せてくださることでしょう。